

題目 人はお金と引き換えにリスクを受け入れるのか—高レベル放射性廃棄物地層処分場の立地の受容に補償が与える影響—

氏名 飯野 麻里

指導教員 大沼 進

本研究の目的は、高レベル放射性廃棄物地層処分場立地の受容に、補償の枠組みの違いがもたらす影響を調べることである。

高レベル放射性廃棄物とは、原子力発電所で使用した燃料を再処理した後に生じる廃棄物である。この高レベル放射性廃棄物には、放射能レベルが十分に減衰するまでに非常に長い時間を要する放射性物質が含まれており、地層処分を行うことが最も安全な処分方法の一つであると考えられている。社会全体の公益的視点からは地層処分の必要性が考えられるが、処分場を受け入れる地域にとっては、風評被害や、将来世代にもスティグマが残ってしまうという恐れがある。この地層処分場に関してリスク認知の観点から分析を行った研究ではリスク認知とベネフィット認知が、社会的受容を規定していることが示されている。忌避施設立地問題におけるベネフィットは社会的ベネフィットと個人的ベネフィットの二つが挙げられ、個人的なベネフィットとして受け入れた地域の自治体や住民に補償金が支払われることが多い。しかし施設の立地と引き換えに補償を提示してうまくいかなかった事例がある。Fray et al. (1996)がスイスにおける核廃棄物処分場の受け入れに関する調査を行ったところ、金銭的補償を提示せず受容するかどうか尋ねた場合、過半数が立地を受容すると回答した。しかし、金銭的補償を提示すると受け入れると回答した人の割合は減少した。これは、補償金が賄賂のように捉えられ反発が起きたと考えられている。これまでのリスク認知研究では、リスクとベネフィットの比較・交換を考えることは、リスクを受容するかどうかという意思決定を行う際に合理的であるという前提を置いていたが、リスクとベネフィットの比較・交換を考えることそのものが拒否される場合がある可能性を考える必要がある。そこで本研究は **Taboo trade-offs** という観点から、リスクとベネフィットの交換が拒否される事例について説明を試みる。**Taboo trade-offs** とは倫理的重要性をもたらす価値と、もたらさない価値との交換のことである。Zaal et al.(2014)は、リスクを伴う忌避施設の受容に関して **Taboo trade-offs** を操作した質問紙実験を行った結果、リスクの受け入れと引き換えに金銭的補償を提示することは、**Taboo trade-offs** と見なされ拒否されることを示した。

ここで、現実の忌避施設の受容に対する補償について考えてみると、リスクや負担が大きい施設

を受け入れる際には直接金銭を補償するだけでなく、病院を無料で利用できるといったような、福祉的な補償も用いられている。この福祉的な補償も金銭的補償と同様に拒絶され受容は高まらないのだろうか。あるいは、金銭的補償とは別のものと見なされて、受容の促進に繋がるのだろうか。以上をふまえ、本研究では、地層処分場の受容に関して、補償形態の違い、つまり直接金銭を補償するかもしくは福祉施設のように福祉的な補償をするか、がどのような影響を与えるのかを検討した。金銭的な補償は、何の補償がない状態よりも受容を高めないと予測できる。福祉的な補償に対しては、二つの対立する仮説が考えられる。一つは福祉的な補償の提示は、何の補償もない場合よりは受容を高めるだろうという仮説で、もう一つは福祉的な補償も金銭的補償と同様に、何の補償もない状態よりも受容を高めないと仮説である。本研究では、このどちらの仮説が正しいのかを探索的に検討する。

方法として web アンケート調査を用いた仮想シナリオ実験を行い、計 1200 名の有効回答を得た。実験の操作として補償のフレームを独立変数として操作した。補償のフレームは、金銭による解決を図ろうというフレームと(経済条件)、広義の社会福祉の向上を目指すというフレーム(福祉条件)、補償のない統制条件の三つを用意した。シナリオは三つの条件で共通している部分と条件ごとに異なる部分で構成されていた。共通部分では、回答者の住む町が地層処分場の候補地となったと説明した。これ以降の補償に関する情報提示が条件間で異なっており、統制条件では正式に地層処分地になり施設が建設されても、とくに何の補償もないとだけ書かれていた。経済条件では、見返りとして莫大な交付金や、住民の不満の声を封じ込めるための各家庭に対する相当な金額の補償金が給付されると書かれていた。福祉条件では、国民全体からの感謝の気持ちとして生涯にわたって健康で文化的な生活を送るためのあらゆるサポートが提供されると書かれていた。質問項目は、処分場に対する恐ろしさ感情、信頼、リスク認知、ベネフィット認知といった伝統的な項目群とリスクと金銭の交換は認められないという Taboo trade-offs、地層処分場の立地候補地になることへの受容などを用意した。

地層処分場の受容に対して補償形態の違いがどのような影響を与えるのかを検証したところ、ほとんどの尺度で有意な効果は得られなかった。立地の受容や他の重要な変数で、平均値に有意な差が得られなかったことから強く言える訳ではないが、補償の有無や補償形態の違いは、地層処分場の受容を高めも低めもしない可能性が示唆された。地層処分場の立地の問題と補償の問題は切っても切り離せないため、リスクとベネフィットの交換を認めない価値について、どのような補償がどのような枠組みで捉えられた場合に認めがたいと見なされるのかさらに検討していく意義はあるだろう。